

2012

# 芸術のるつぼ

「楽しい音楽・美しい舞台」

第1回

2012  
6/2

韓国



パネリスト 朴 順雅 (パク スナ)  
パネリスト 金 成周 (キム ソンジュ)  
コーディネーター 鄭 玄実 (チョン ヒョンシル)

カヤグム  
伽耶琴～韓国伝統弦楽器～  
フォーラム「韓国の音楽文化」

- カヤグムの紹介
- 日本、朝鮮半島の南北でのカヤグム習得研究による共通点や相違点について
- 韓国の伝統音楽(国楽)の現在～国楽の現代創作音楽について
- 質疑応答

伝統楽器紹介とワークショップ  
講師 朴 順雅・河 栄守

伽耶琴などの韓国伝統楽器の紹介と、実際に楽器に触れられるワークショップを開催

世界の  
民族音楽祭・福島  
韓国コンサート  
同時開催  
＜有料＞

第2回

2012  
6/9



講師 うめ吉

俗曲

今、魅惑  
江戸庶民派伝統芸  
うめ吉ワールド!

江戸時代からほとんどそのしくみが変わらない伝統の場“寄席”の世界で生まれ育った俗曲師「うめ吉」。海外公演のエピソードや三味線音楽についての解説など、寄席で磨かれた楽しいトークもたっぷり。鳴り物にミカド香奈子を加え、日舞あり、お座敷民謡、昭和歌謡など幅広いエンターテインメントをお楽しみいただけます。

「寄席の一日」  
～大看板を目指して～

前座時代の修業の話や寄席の楽屋で行われていることなど、あまり知られていない楽屋風景をお話し致します。

第3回

2012  
6/16

落語



講師  
三遊亭 遊之介



第4回  
2012  
6/23

ピアノ

講師  
ミハウ・ソブコヴィアク  
スペシャルゲスト  
古畑 雅規 教授(画家)

「印象派エクストリーム」  
Debussy & Ravel

- 印象派の特徴
- ドビュッシーとは
- ラヴェルとは

チターの魅力  
エーデルワイスの花とともに

- チターの歴史
- チターの演奏法
- チター音楽の魅力  
演奏とトークで紹介
- 音楽の都・チターの都ウィーン
- 映画「第三の男」誕生秘話

第5回

2012  
6/30

チター



講師  
内藤 敏子

会場 福島市音楽堂小ホール

開演 14:00(第1回のみ13:30)  
※開場時間は各30分前

総括:福島市音楽文化総合アドバイザー 三浦 尚之

チケット代金		
	1回券	5回セット券
一般前売	1,000円	4,500円
会員前売	900円	4,000円

●福島市音楽堂 024-531-6221  
【インターネット】福島市音楽堂 検索  
●ローソンチケット 0570-084-002 Lコード:27231  
【店頭】ローソンLoppi  
【インターネット】http://l-tike.com/  
(PC/携帯共通)



主催◎(財)福島市振興公社(福島市音楽堂) 共催◎福島市教育委員会 後援◎(株)福島民報社・福島民友新聞社(株)・福島テレビ(株)・(株)テレビユー福島・(株)福島中央テレビ・(株)福島放送  
お問い合わせ 福島市音楽堂 TEL.024-531-6221 http://www.f-shinkoukousha.or.jp/ongakudou  
〒960-8117 福島市入江町1-1 お願い!駐車台数に限りがありますので、バス・タクシー等の公共交通機関のご利用をお願いいたします。

2012

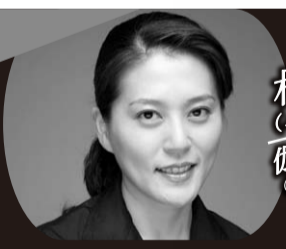
# 芸術のるつぼ

「楽しい音楽・美しい舞台」

講師プロフィール

第1回

韓国  
KOREA

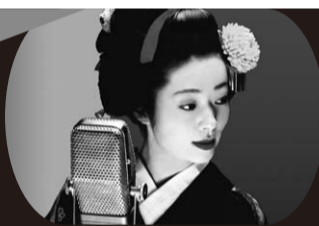


朴 順雅  
(パク スナ)  
伽耶琴奏者  
(カヤグム)

朝鮮大学師範学部音楽科卒業  
ピョンヤン音楽舞踊大学通信教育終了(4年間)  
金剛山歌劇団民族器楽団歴任  
朝鮮大学講師歴任  
韓国・日本・中国琴アンサンブル KOTOHIMEメンバー  
国立韓国芸術総合学校伝統芸術院 芸術専門士取得  
韓国音楽アンサンブル「BARAMGOT」メンバー  
淑明女子大学、ソウル大学、嶺南大学、韓国芸術総合学校 講師

第2回

俗曲  
ZOKKYOKU



うめ吉  
俗曲師

平成の時代に突如現れた日本髪に三味線という古風な日本女性の姿…彼女の名は「うめ吉」。そこで当然連想するのが、「芸者さんなのでは?」いえいえ芸者衆は普段町の中をあの姿では歩きません。三味線も達者で唄も上手い、しかも踊りも何拍子も揃った若手芸者衆を今の平成の世に見つけるのは至難の業です。「うめ吉」の活動の拠点は寄席。その伝統の世界の裏方として下座の三味線を経験し、2000年、表舞台に若手俗曲師(落語の合間に演じる色物芸人の中で、戦前の流行歌・都々逸・端唄等を三味線を弾きなが

ら歌う芸人)として登場しました。彼女が憧れ目指したのは、戦前戦後の芸者歌手達が唄う俗曲や流行歌。今の時代に江戸情緒薫る三味線音楽を復活させたいと考えたのです。歌謡史の中で誰もが出来そうでは実は誰も成し得ていない日本人の伝統的表現の復権を目指しています。2006年には米国テキサス、2008年ハワイ、2009年ウィーン、ベトナム、カンボジアと国内外で新時代のジャポニズムアーティストとして活躍中、15枚のCDアルバム、2枚のDVD、著書「うめ吉のニッポンしましょ」をリリース。

第3回

落語  
RAKUGO



三遊亭 遊之介  
落語家

昭和60年3月 三遊亭小遊三に入門。  
前座名 三遊亭おまえ  
平成元年6月 遊之介と改名し、二ツ目に昇進  
平成9年5月 真打に昇進  
平成14年 東京芸術大学講師(舞台芸術論)

◎得意ネタ  
鰻の割間、粗忽の釘、藁の油、湯屋番、味噌蔵、ふぐ鍋、ひなつば、真田小僧、浮世床、宿屋の富  
◎出囃子「越後獅子」

第4回

ピアノ  
PIANO



ミハウ・ソブコヴィアク  
ピアニスト

1973年、ポーランドの音楽家の家庭に生まれる。10歳にしてテレビ番組「Akademia muzyczna(アカデミア・ムジチナ)」でピアニスト・デビューを果たす。当時より多くのファンを魅了し、その演奏技術の高さを評価され、国立フィルハーモニー・ホールをはじめとするワールドの名立たるコンサート・ホールに出演。国外の国際音楽祭にも多数参加し、好評を博す。ヨーロッパ・日本の主要音楽事務所と提携し多彩な作曲・演奏活動を展開する他、日本の音楽教育の場にも幅広く貢献している。代表作として自らの日本への思いを綴ったCD「Ikebana」があり、ソブコヴィアク独特の和声と旋律を醸し出している。フルシャワ・ショパン音楽院ピアノ科を卒業後(1998年)、チューリッヒ音楽院研究科にて研鑽を積み、現在、福島学院大学にて教授、尚美ミュージックカレッジにて講師として教鞭を執る。「ヨーロッパ・ピアノコンクール in Japan」と「ショパン国際コンクール in Asia」で審査員としても活躍している。

第5回

チター  
ZITHER



内藤 敏子  
チター奏者

武蔵野音楽大学弦楽器科卒業。スイスに十数年在住。バイオリン演奏活動と共にチター界の実力者J・コーザ女史からチターを習得。「第三の男」で有名なチター奏者アントン・カラス、20世紀を代表する巨匠R・クナッパル氏にも師事。スイスにてチター演奏家及び教育者ディプロムの資格を取得。帰国後日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団他と協演。「題名のない音楽会」「名曲アルバム」「どれみふぁワウダーランド」「ラジオ深夜便」等テレビやラジオに出演。日本各地でのコンサートや日本随一のチター専門教育の責任者としてチター演奏家・教育者育成に力を注ぐ。音が人間に与える影響を大切に考え病院内の演奏活動を通して、チターの美しい音色で患者さんと生きる尊さを分かち合う。秋篠宮妃紀子殿下のチターの先生。著書「第三の男・誕生秘話」は5年の歳月をかけ、A・カラスの遺族から寄贈された約200点の貴重な写真と資料も掲載して出版。日本チター協会会長。